



## 「ならまち」で奈良の伝統文化を楽しむ夜のひと時 「ならまちナイトカルチャー」

江戸時代から明治期にかけての町家の面影を今に伝える「ならまち」で、平成23年10月25日（火）～11月7日（月）の間、雅楽や狂言、能などの奈良の伝統芸能や文化講座等を楽しむ「秋のならまちナイトカルチャー」（主催：奈良市）が開催される。

夜の奈良を楽しんでもらおうと、平成20年秋の「正倉院展」の時期に初めて行われて以来、「平城遷都1300年祭」でにぎわった昨年度までは、春秋の観光シーズンに開催し、平成23年度からは春夏秋冬の年4回開催となり、地元の人だけではなく観光客からも人気を集めている。

催しでは、雅楽や、能、狂言などの奈良にゆかりの深い芸能文化が楽しめ、大蔵流「狂言」では、観客も舞台上上がる企画が用意され、伝統芸能に馴染みの薄い若い世代にも身近に感じ親んでもらう機会となっている。中でも、「奈良の舞妓と奈良の唄」は、これまで京都に隠れてあまり知られなかった奈良の魅力として特に人気があるという。

また、正倉院保存課調査室の専門家による「正倉院展」（今年10/29～11/14）の解説は、展示



物を単に見るだけではなく、事前に由緒などの理解を一層深め、魅力をさらに引き出すものといえる。

近年は、地元の文化を体験する、あるいはより深く理解することが観光ニーズとして高まっており、

こういった催しは奈良市内のホテル・旅館の宿泊客誘致の一つの目玉としても期待されている。そのため、世話役を担う「ならまち振興財団」では、宿泊施設や旅行会社などからのオファーがあれば、雅楽や能の鑑賞、伝統工芸のワークショップの開催、神職・僧職による講話などの企画にも協力している。

これまで、奈良を訪れる観光客からの要望として、夜の過ごし方の充実を求める声が高かったが、奈良らしい「ナイトライフ」として、今後の発展が期待される。  
(山城 満)

### 「ならまちナイトカルチャー」開催予定

問い合わせ・申し込み：ならまち振興財団 (0742-27-1820)

各催しは当日参加も可能だが、午後7時までに上記へ電話申し込みが必要。

【開催時間】午後8時～9時（7時半会場） 【開催場所】奈良市ならまちセンター（奈良市東寺林町38）

【鑑賞料】各500円（狂言鑑賞のみ1000円）【定員】「奈良の舞妓と奈良の唄」300人、その他は各100人（予定）

月	日	内 容	出 演	
10月	25日（火）	奈良の舞妓と奈良の唄	奈良の舞妓と踊り手の出演。	菊弥／坂本社中
	26日（水）	落語鑑賞	奈良にちなんだ落語。	笑福亭純瓶／笑福亭生寿
	27日（木）	雅楽鑑賞	笙、箏、横笛によるアンサンブル。	奈良雅楽アンサンブル
	28日（金）	落語鑑賞	奈良にちなんだ落語。	桂出丸／桂文鹿
	29日（土）	ならまち文化講座	宮内庁正倉院事務所による正倉院展の話題。	正倉院事務所 飯田剛彦氏
	30日（日）	ならまち能鑑賞	金剛流「能」を素描表現で鑑賞。	奈良金剛会主宰 シテ方 植田恭三
11月	1日（火）	奈良の舞妓と奈良の唄	奈良の舞妓と踊り手の出演。	菊弥／坂本社中
	2日（水）	狂言鑑賞	大蔵流狂言。	大蔵基誠／奈良篠基会 主宰 竹内寛
	3日（木）	雅楽鑑賞	笙、箏、横笛によるアンサンブル。	奈良雅楽アンサンブル
	5日（土）	ならまち文化講座	奈良文化について（予定）	
	6日（日）	ならまち能鑑賞	金剛流「能」を素描表現で鑑賞。	奈良金剛会主宰 シテ方 植田恭三
	7日（月）	狂言鑑賞	大蔵流狂言。	大蔵基誠／奈良篠基会 主宰 竹内寛

10月31日（月）と11月4日（金）は休館日